

特集1 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議

1 はじめに

2014年(平成26年)11月10日(月)から12日(水)まで、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)及び日本政府の主催で、「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」(以下「世界会議」という。)が開催されました。この会議は、「国連ESDの10年」における各国のESDの取組の成果の共有を図り、2014年以降の方策を議論する大変重要な国際会議です。

本県は、愛知万博やCOP10(生物多様性条約

第10回締約国会議)の開催を通じ、「持続可能な社会」の大切さに対する意識が高い地域です。開催地元として、名古屋市や地元経済界、教育機関等とESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会(以下「支援実行委員会」という。)を設立し、「会議支援」「あいち・なごやの魅力発信」「ESDの普及啓発」「ESDの取組促進」の4つの柱で、世界会議を全力でサポートしました。

本特集では、世界会議の概要と関連する地元の取組についてお伝えします。

【ESDとは】

Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な社会を支える担い手づくり」のことで、国連などが中心となって世界中で進められている取組で、環境、貧困、人権、平和など人類を取り巻く様々な課題を自らの問題とし、環境・社会・経済を統合的かつ総合的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人を育てる取組です。

【ESDに関する世界の動きと国内の取組】

1987年 (昭和62年)	<ul style="list-style-type: none"> 環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)による報告書「将来世代のニーズを充足する能力を損なうことなく環境を利用し、現在の世代のニーズも満足させるような開発」という「持続可能な開発」の定義が示された。
1992年 (平成4年)	<ul style="list-style-type: none"> 環境と開発に関する国連会議(地球サミット(UNCED))地球再生の行動計画「アジェンダ21」において、持続可能な開発のための教育の重要性が付加された。
2002年 (平成14年)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)日本政府がNGOからの提言を踏まえて「ESDの10年」を提唱。 第57回国連総会「国連ESDの10年」を決議。 ※「国連ESDの10年」: ESDの取組を世界中で積極的に行う2005年から2014年までの10年間のこと。2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)において日本が提唱し、同年の国連総会で採択され、ユネスコが推進機関とされた。
2005年 (平成17年)	<ul style="list-style-type: none"> 「国連ESDの10年」が始まる(～2014年まで)。「愛知万博」の開催
2009年 (平成21年)	<ul style="list-style-type: none"> 「国連ESDの10年」世界会議(中間年会合)(ドイツ・ボン)日本政府が「国連ESDの10年」最終年会合の開催意思を表明。 第35回ユネスコ総会2014年の最終年会合を日本で開催することを決議。
2010年 (平成22年)	(生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催)
2011年 (平成23年)	<ul style="list-style-type: none"> 1月 愛知県が最終年会合の誘致を表明。 6月 地元誘致委員会を設置、国に開催提案書を提出。 9月 政府の関係省庁連絡会議において、2014年の「国連ESDの10年」最終年会合の開催地及び全体の取りまとめ会合開催地を愛知・名古屋で開催と決定。
2012年 (平成24年)	<ul style="list-style-type: none"> 5月 ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会設立
2013年 (平成25年)	<ul style="list-style-type: none"> 第37回ユネスコ総会大村知事がフランス・パリ市に渡航し、ユネスコのイリーナ・ボコバ事務局長を始め世界会議関係者と面談したほか、ユネスコ総会参加国に対して開催地PRを行った。
2014年 (平成26年)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議開催



ボコバ事務局長(左)と歓談する大村愛知県知事(右)

2 世界会議の開催

世界会議では、150 カ国・地域から 76 名の閣僚級を始め政府代表や教育関係者などを中心に 1,000 名以上の ESD 関係者が集まり、「国連 ESD の 10 年」の活動を振り返るとともに、2014 年（平成 26 年）以降の方策などについて話し合われました。

皇太子同妃両殿下が御臨席された開会全体会合を皮切りに、3 日間の会期中、4 回の全体

会合、34 のワークショップ、25 のサイドイベントが催され、42 の展示ブースが設置されました。閉会全体会合では、これまでの 10 年間の成果や本会議及び前週の岡山市でのステークホルダー会合での審議を踏まえ、「あいち・なごや宣言」が採択されたほか、ESD あいち・なごや子ども会議の参加者から、メッセージが発表されました。開催結果の概要は、次のとおりです。

【世界会議の概要】

名 称：持続可能な開発のための教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議
(UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development)

主 催：国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ)、日本政府

開催期間：2014 年 11 月 10 日 (月) から 12 日 (水) まで

ハイレベル円卓会議、全体会合等

※ 11 月 13 日 (木) には、日本国内の関係者による
フォローアップ会合を開催

会 場：名古屋国際会議場 (名古屋市熱田区)

参加人数：150 カ国・地域から 76 名の閣僚級、ユネスコ加盟国の
政府代表、NGO、大学関係者、民間部門、国連機関、専門
家、ユース世界会議代表等を含む 1,000 名以上が参加

会議内容：11 月 10 日 (月)

■開会全体会合

□開会あいさつ イリーナ・ボコバ ユネスコ事務局長
下村博文 文部科学大臣、大村秀章 愛知県知事

□皇太子殿下お言葉

□スピーチ ララ・ハスナ モロッコ王女

□パネルディスカッション「国連 ESD の 10 年の成果と課題」

□閣僚級からのコミットメントの発表

■ハイレベル円卓会議 (閣僚級会合)

■ワークショップ I 「ESD の概念」始め 7 分科会

11 月 11 日 (火)

■全体会合 II 「2030 年の ESD の姿とは？」

■ワークショップ II 「幼児教育・発達支援のための ESD イニシアティブの策定」始め
9 分科会

■ワークショップ III 「水の教育とキャパシティ・ビルディング」始め 11 分科会

11 月 12 日 (水)

■全体会合 III 「教育は持続可能な開発のゲームチェンジャー？」

■ワークショップ IV 「ESD における現地イニシアティブ」始め 7 分科会

■閉会全体会合

□世界会議の結論



全体会合の様子

- 全体報告者による発表
- あいち・なごや宣言^{※1}の発表と採択
- ESDに関するグローバル・アクション・プログラム^{※2}（GAP）の発表
- GAP 実施方針の発表
- ESD あいち・なごや子ども会議からのメッセージ発表
- 閉会の辞 丹羽秀樹 文部科学副大臣、チエン・タン ユネスコ事務局長補

※1 「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」の具体的な実施に向けて、各ステークホルダーがESDを更に強化し、そのための行動を起こすことを宣言したもの。宣言では、ESDの重要性を確認し、これまでの「国連ESDの10年」の成果を総括するとともに、GAPの実施に向けて全てのステークホルダー、加盟国、ユネスコへ呼びかけを行う内容が盛り込まれている。

※2 2013年11月の第37回ユネスコ総会で採択された「国連ESDの10年」の後継プログラム。5つの優先行動分野（(1)政策的支援、(2)機関包括的取組、(3)教育者の育成、(4)若者の参加の支援、(5)地域コミュニティの参加の促進）を定め、ステークホルダーからコミットメントという形で2015年以降の具体的な計画を収集し、2015年以降のESDの取組を推進する。

【あいち・なごや宣言（要約）】

- 2014年11月10日から12日まで愛知県名古屋市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の参加者である我々は、持続可能な開発に関する経済、社会、環境分野のバランスの取れた統合ができるようにこの宣言を採択し、持続可能な開発のため教育（ESD）の更なる強化と拡大のための緊急の行動を求める。
- この宣言は、国連ESDの10年（2005～2014）の成果、ESDユネスコ世界会議及び岡山市で開催されたステークホルダーの主たる会合、さらにその他の関連イベントや協議プロセスの審議に基づく。
- 我々はESDユネスコ世界会議の開催国である日本政府に心から感謝する。

- 1 国連ESDの10年の多大なる功績を祝し、
- 2 国連ESDの10年の実施に積極的に参加した多くの政府、国連機関、非政府組織、教育機関・組織、学校の教育者と学習者、地域と現場、ユース、科学コミュニティ、学术界、その他のステークホルダー、同10年の主導機関であるユネスコに感謝し、
- 3 リオ+20の成果文書「我々が望む未来」に含まれるESDの国際的なコミットメントを想起し、
- 4 グローバル・アクション・プログラム（GAP）が、教育、訓練、学習の全てのレベル及び分野においてESDの行動の導入、拡大を目指していることに留意し、
- 5 ESDを持続可能な開発の実施のための極めて重要な方法として再確認し、
- 6 包括的な質の高い教育と生涯学習に不可欠で、変化させる力を持つ要素として、また持続可能な開発を可能にするものとしてESDの国際的な認知の高まりを歓迎し、
- 7 ユネスコ/日本ESD賞[※]の創設を評価し、

我々参加者は、

- 8 学習者自身及び学習者が暮らす社会を変容させる力を与えるESDの可能性を重要視し、
- 9 ESDは、先進国と発展途上国の両方が貧困撲滅、不平等の縮小、環境保護、経済成長のための努

力の強化に取り組む機会であり、責任であることを強調し、

- 10 ESD の実践は、文化、平和、伝統知、先住民の英知、人権、男女平等、民主主義、社会主義のような普遍的原則とともに、地元、国内、地域、世界の文脈を十分に考慮すべきであることを強調し、
- 11 関係する全てのステークホルダーが表明した ESD への参加に感謝し、
- 12 包括的な質の高い教育及び生涯学習をとおして、GAP 開始のモメンタムの構築及び維持を約束し、
- 13 関係する全てのステークホルダーが、相乗的な方法で、a) 明確なゴールを設定し、b) 活動を開発、支援、実施し、c) 経験を共有するためのプラットフォームを構築し、d) GAP の五つの優先行動分野におけるモニタリング及び評価の方法を強化するよう求め、
- 14 全ての関係するステークホルダーが、ユースをキーとなるステークホルダーとして尊重しながら、部門や分野の境界を越えて共同的で可変的な知識の生産、普及、活用、イノベーションの促進に従事するよう促進し、
- 15 ユネスコ加盟国の政府に以下のような更なる取組を求める。
 - a) 教育、訓練、及び持続可能な開発政策への ESD の統合を強化し、教育、訓練、職能開発が十分に ESD を取り入れることを確保し、
 - b) 政策を行動に移すために実質的な資源を配分、結集し、
 - c) 第一に ESD を教育の目標として残し、第二に世界会議（2014）の成果を世界教育フォーラム（2015）において考慮されるよう保証することでポスト 2015 年アジェンダ及びそのフォローアッププロセスに ESD を反映、強化させる。
- 16 ユネスコ事務局長に以下のことを求める。
 - a) 政府、他の国連機関、開発パートナー、民間企業、市民社会と協力し、ESD のグローバルリーダーシップを提供し、政策の共同作用を支援し、ESD に関するコミュニケーションを円滑化し、
 - b) ESD を実施するための新たなモメンタムを構築し、パートナーシップを活用し、ユネスコスクール、ユネスコチェア、ユネスコが支援するセンター、生物圏保存地域及び世界遺産の国際ネットワークなどのネットワークを活用、動員し、
 - c) ESD の資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援する。

※「国連 ESD の 10 年」のフォローアップである「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム (GAP)」のビジビリティを高め、次の 5 年間(2015-2019)、GAP の 5 つの優先行動分野の 1 つ以上において、ESD の推進に顕著な貢献のあった者（毎年 3 件程度）に対し、それぞれ 5 万ドルの奨励金が授与される。

なお、あいち・なごやでの「閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合」に先立ち、2014 年（平成 26 年）11 月 4 日（火）から 7 日（金）まで岡山市に

において、国連機関、研究者、学校関係者等各種ステークホルダーの会合が開催されました。

【岡山市で開催された各種ステークホルダーの主たる会合】

- ユネスコスクール世界大会 11 月 6 日（木）から 8 日（土）まで
- ユース・コンファレンス 11 月 7 日（金）
- 持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議 11 月 4 日（火）から 7 日（金）まで

3 世界会議に向けた開催地元の取組

県は、世界会議の成功に寄与するため、支援実行委員会の一員として、世界会議の安全・安

心な運営と会議参加者の快適な滞在等に係る様々な取組を行いました。



出典：ESDに関するユネスコ世界会議開催支援計画

(1) 会議支援

主催者（ユネスコ・日本政府）、地元関係機関などと連携・協力しながら、万全の体制で支援しました。



輸送支援（ユネスコ事務局長車）



交通案内

警備協力	ユネスコ・日本政府・地元警察と調整した警備計画に基づき、会場内・会場周辺に民間警備員を配置した。
救急対応	急病者への対応のため、会場内に救護所を設置するとともに、近隣病院で重篤者の受入れができる体制を構築した。
環境配慮	会場におけるごみ分別や、地元の取組についてカーボンオフセットを実施することにより、環境に配慮した会議運営を推進した。
宿泊支援	市内ホテルに部屋を確保するとともに、宿泊支援システム（ウェブサイト）を構築し、会議参加者がスムーズに宿泊を予約することができる体制を整えた。
輸送支援	会議参加者やユネスコ事務局職員が会場と宿泊施設・空港間をスムーズに移動するための支援を行った。
交通案内	中部国際空港及び市内主要駅などに会議参加者の快適な移動のための交通案内所を設置した。

(2) あいち・なごやの魅力発信

世界会議を契機として、地域の多様な魅力を世界の人々に体感していただくとともに、国内外に向けての発信を積極的に行いました。

公式歓迎行事	会議参加者に歓迎の意を表すためのレセプションを開催し、地域の食文化（なごやめし等）をPRした。 ※ 11月10日 名古屋国際会議場
おもてなし交流エリア	会場内（イベントホール）で、地域のPR、ESDの取組のパネル展示・呈茶サービス等を実施した。
歓迎装飾	会議参加者に歓迎の意を表すためのバナーを主要駅・空港等に設置したほか、テレビ塔のライトアップ装飾を実施した。
ボランティア	語学堪能なボランティア147名を配置し、会議参加者へのサポート（交通案内・会議運営補助等）を行った。
エクスカーシオン	会議参加者があいち・なごやの伝統・産業技術・ESDの取組などを体験・体感する視察旅行を13コース実施し、412名が参加した。
地元情報の提供	会場内に情報発信カウンターを設置し、地元ガイドブックや観光パンフレットを配布した。



あいち・なごやおもてなし交流エリア



歓迎装飾（バナー）



歓迎装飾（テレビ塔）



エクスカーシオン



地元主催歓迎レセプション



(3) ESDの普及啓発

県及び支援実行委員会では、啓発イベントの開催、SKE48メンバー7名のESDあいち・なごや広報大使任命、ESD愛・地球プロジェクトの展開、展示会等への出展、広報ツールによる普及啓発等により、ESDに対する理解の浸透と、世界会議の開催機運の醸成を図りました。

ア ESD イヤーキックオフイベントの開催

支援実行委員会では、世界会議が開催される平成26年をESDイヤーと位置づけ、県内各地でのPR活動や節目毎の記念イベントの開催などを通じて、世界会議の周知とESDの取組をより一層促進することとし、その幕開けを飾るキックオフイベントを開催しました。

【ESD イヤーキックオフイベント】

日時：平成26年1月13日（月・祝）

場所：愛知県産業労働センター（ウイנקあいち）

内容：①記念式典

主催者あいさつ 大村秀章 愛知県知事（支援実行委員会会長）

来賓あいさつ 世耕弘成 内閣官房副長官
安西祐一郎 ユネスコ国内委員会会長
武内和彦 国連大学上級副学長

キックオフ宣言 河村たかし 名古屋市長（支援実行委員会会長代行）とキッズチア

②トークショー「ESDってなに？」

ESD オフィシャルサポーターのさかなクンと「あいち広報大使」SKE48の高柳明音さんが魚のイラストや映像を交えながら、ESDについて分かりやすく説明するとともに、ユネスコスクール世界大会の中部地区代表校である県立豊田東高校の生徒から、ESDに係る取組が発表されました。

③パネルディスカッション（14：00～15：00）

NPO、大学、企業の各立場のパネリストにより防災、生物多様性、フェアトレード、環境保全などの分野の取組の事例発表が行われました。

④ESD地球市民村「ラーニング・プログラム」

全国で取り組まれている環境、国際理解等のESDに関するプログラムについてのプレゼンテーションの後、11階に会場を移して体感型・思考型のワークショップ、クラブ体験等が実施されました。



キックオフ宣言



トークショー「ESDってなに？」

イ 開催半年前イベントの開催

支援実行委員会では、会議開催地としての機運の盛り上げと、ESDの普及啓発のため、平成26年

5月から6月にかけて、県内3カ所（名古屋、尾張、三河）で開催半年前イベント「あいち・なごやESDフェスタ2014」を開催しました。

【開催半年前イベント】

<尾張会場>

名称：あいち・なごやESDフェスタ2014 in 尾張
 日時：平成26年5月11日（日）
 場所：愛・地球博記念公園地球市民交流センター（長久手市）
 内容：ESD あいち・なごや広報大使の任命式、SKE48 ESDトークステージ、ESD活動団体によるブース出展、ステージ発表など



あいち・なごやESDフェスタ2014 in 尾張

<三河会場>

名称：あいち・なごやESDフェスタ2014 in 三河
 日時：平成26年5月17日（土）
 場所：穂の国とよはし芸術劇場プラット（豊橋市）
 内容：河原崎辰也・BOYS AND MEN トークステージ、ESD活動団体によるブース出展、ステージ発表など



あいち・なごやESDフェスタ2014 in 三河

<名古屋会場>

名称：あいち・なごやESDフェスタ2014 in 名古屋
 日時：平成26年6月7日（土）、8日（日）
 場所：オアシス21 銀河の広場（名古屋市中区）
 内容：Rev. from DVL トーク・ライブステージ（7日のみ）、ESD活動団体によるブース出展、ステージ発表など



あいち・なごやESDフェスタ2014 in 名古屋

ウ ESD あいち・なごや広報大使の任命

県では、ESD ユネスコ世界会議開催を広く県民にアピールするため、地元人気アイドルグループSKE48のメンバー7名（須田亜香里さん、柴田阿弥さん、梅本まどかさん、木本花音さん、古畑奈和さん、東李苑さん、山田みずほさん）を「ESD あいち・なごや広報大使」に任命し、各種啓発資料（チラシ、パンフレット、ノベルティ等）、各種メディアなどでESDをPRしていただきました。

- ・ 名古屋駅前の大名古屋ビルディング工事用仮囲の全面を使用した壁面広告の実施（平成26年5月1日～31日及び10月10日～11月13日）



名古屋駅前の壁面広告

- ・ 半年前イベント「ESD フェスタ 2014 in 尾張」にて広報大使任命式、トークイベントに出演
- ・ 啓発チラシ「ESD なるほど！ なっとく！ BOOK」の作成
- ・ イベント配布用ノベルティ（ステッカー）の作成
- ・ PR 用等身大パネルを県及び県内全市町村の庁舎に設置（7月1日から11月13日まで）



ESD PR キッズユニット「sweet magic」



広報大使の等身大パネル



ESD PR 隊「ESD LOVEARTH」による学校訪問

エ ESD 愛・地球プロジェクトの展開

県では、ESD PRキッズユニット「sweet magic」^{スィートマジック}やESD PR隊「ESD LOVEARTH」^{ラブアース}を組織し、市町村イベントでのパフォーマンス、学校訪問、市町村長への表敬訪問等を通じてPR活動を行う「ESD 愛・地球プロジェクト」を展開しました。（平成26年5月から11月まで）。

オ 企業セミナーの開催

支援実行委員会では、世界会議開催を契機として企業とESDとの関連を意識づけるため、企業向けのESDに係るセミナーをメッセなごや2014（平成26年11月5日～8日、ポートメッセなごや）と連携して実施しました。

【ESD 企業セミナー】

日 時：平成26年11月6日（木）

場 所：ポートメッセなごや イベント館2階ホール（名古屋市港区）

内 容：①基調講演

講師 生物学者／早稲田大学教授 池田 清彦 氏
ほんとうの環境問題 ～持続可能な開発とともに～

②パネルディスカッション

ファシリテーター 中日新聞論説委員 飯尾 歩 氏
パネリスト

東邦ガス(株)

服部 雅夫 氏

ユニグループ・ホールディングス(株)

百瀬 則子 氏

(株)山田組

山田 厚志 氏



パネルディスカッション

カ 広報ツールによる普及啓発等

支援実行委員会では、ポスター、新聞広告、ウェブサイト等各種広報媒体を活用するとともに、県内の多様な主体とも連携しながら、世界会議の開催やESDについて広く周知を行いました。

ポスター	愛知県内の市町村、コンビニエンスストア、金融機関、駅等にポスターを掲出
新聞広告	世界会議や啓発イベント等の実施に合わせ、主要各紙に新聞広告を掲載

(4) ESDの取組促進

支援実行委員会は、会議を契機として、NPO、教育関係者、企業、行政機関など、地域の多様な主体と連携しながら、持続可能な社会づくりに向けた取組をさらに進めました。

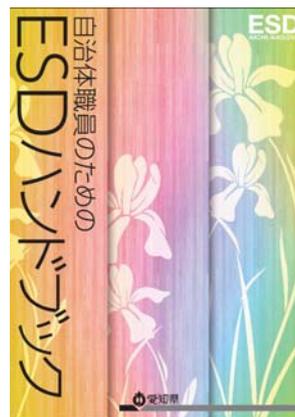
ア ESD あいち・なごやパートナーシップ事業

支援実行委員会は、世界会議のPRやESDの普及促進に、支援実行委員会と一緒に取り組み、会議を盛り上げていただく事業・イベントを登録する「ESD あいち・なごやパートナーシップ事業」により、NPO、企業、行政機関など、多様な主体によるESDの取組を促進しました(平成26年11月現在580件)。

イ 県(ESD会議支援室)の取組

県全体でESDの取組を促進するため、地域づくりの中核的な担い手である自治体職員を対象に「自治体職員のためのESDセミナー」を平成25年7月から約半年を掛けて開催し、その内容と県内市町村及び県各部局等の具体的なESDの取組例

を取りまとめた「自治体職員のためのESDハンドブック」を作成しました。



ESDハンドブック

平成26年度には、市町村を中心に住民、NPO、企業等の多様な主体が連携したESDの取組を促進することを目的に、県内6市における関連事業の取組発表、人づくりをテーマとした講演等により、持続可能な地域づくりとその担い手づくりを考える「あいちESDシンポジウム」を開催しました。

【あいちESDシンポジウム】

日時：平成26年8月1日(金)

場所：愛知県産業労働センター(ウイंकあいち)大ホール(名古屋市中村区)

参加者：750名

内容：①オープニングアクト

ESD PR キッズユニットによるダンス&ライブ

②オープニング

主催者あいさつ 大村秀章 愛知県知事

来賓あいさつ 上野通子 文部科学大臣政務官

③キーノートレクチャー

小島敏郎氏(青山学院大学教授、元環境省地球環境審議官)

「自分の『場』からESDを考え、行動する」

④取組発表

町永俊雄氏（元 NHK アナウンサー）をファシリテーターに迎え、県内の6市が連携・協力機関とともに ESD 関連事業を発表

発表市	連携・協力機関	取組名
名古屋市	EPO 中部	なごや環境大学
一宮市	NPO 法人志民連いちのみや	市民が選ぶ市民活動支援制度
半田市	はんだ環境パートナーシップ 会議推進部会	もったいないバザール
碧南市	アイシン精機(株)	碧南海浜水族館における企業と連携した 絶滅危惧種の保全活動
刈谷市	県立刈谷北高等学校	学校 ESD プロジェクト
犬山市	NPO 法人犬山里山学センター	行政と市民協働による環境学習の持続 的展開

⑤スペシャルトーク

古田敦也氏（元東京ヤクルトスワローズ監督）

「古田流人材育成」



6市による取組発表



スペシャルトーク

ウ あいち・なごやの ESD 交流・発信の場（併催イベント）の開催

支援実行委員会では、世界会議の開催に併せ、日本政府や自治体、NPO、NGO、学術機関、企業な

ど、ESD に取り組む多様な主体が集い、交流し、発信する場を提供するため、名古屋・栄地区、名古屋国際会議場及びその周辺の白鳥地区において、併催イベントを開催しました。

【あいち・なごや ESD 交流フェスタ】

<栄会場（オアシス 21）>

日時：平成 26 年 11 月 8 日（土）～12 日（水）

場所：オアシス 21 銀河の広場（名古屋市東区）

内容：政府、支援実行委員会等によるブース展示・ワークショップのほか、ステージでは SKE48 や BOYS AND MEN などの日替わりゲストを迎えて楽しみながら ESD を知っていただく「ESD トーク&ライブ」、CBC ラジオ番組公開イベント「ESD 応援ウィーク」などを実施



オープニングセレモニー（栄会場）

<栄会場（エンゼル広場、久屋広場）>

日 時：平成 26 年 11 月 8 日（土）～9 日（日）
 場 所：久屋大通公園（エンゼル広場、久屋広場）（名古屋市中区）
 内 容：NPO、市町村、企業等の ESD 活動団体によるブース展示のほか、エンゼル広場ではワークショップ体験、久屋広場のステージでは、取組発表や「ゆるキャラ」「戦隊ヒーロー」のステージを実施



ゆるキャラステージ（栄会場）

<白鳥会場>

日 時：平成 26 年 11 月 10 日（月）～12 日（水）
 場 所：名古屋国際会議場 西側駐車場（名古屋市熱田区）
 内 容：NPO、市町村、企業等の ESD 活動団体によるブース展示のほか、名古屋市の主催による環境団体の活動発表やトークショーを行う「みんなの環境ひろば」を設置



活動団体によるブース展示（白鳥会場）

【ESD 交流セミナー】

日 時：平成 26 年 11 月 10 日（月）～12 日（水）
 場 所：名古屋国際会議場 1 号館 4 階レセプションホール（名古屋市熱田区）
 内 容：NPO、企業、学校等の主催による 13 セミナーのほか、支援実行委員会主催により「あいち・なごや ESD 特別セミナー」として、次の 2 セミナーを実施

- ・ 11 月 11 日（火）「ハードルを越える～未来づくり・人づくり～」 講師 為末 大 氏
- ・ 11 月 12 日（水）「僕らは大きな世界の一粒の命」 講師 白井 貴子 氏・南 流石 氏

このほか、文部科学省が公募し、NPO、NGO、企業、学校等が主催する 21 セミナーを開催



ESD 交流セミナーの様子



あいち・なごや ESD 特別セミナー
「僕らは大きな世界の一粒の命」

エ ESD あいち・なごや子ども会議の開催

支援実行委員会では、世界会議の開催に併せて、県内の子どもたちが中心となり、持続可能な社会づくりについて学び、話し合う子ども会議を開催しました。

子ども会議には、県内 65 校から 121 名が参加し、エクスカージョン（現地学習）で県内各地の

現状や課題について学習し、その後、グループ討議で持続可能な社会づくりに向けた方策を話し合い、最後に全体会議において、話し合った内容のとりまとめを行いました。

このとりまとめた内容については、子ども会議からのメッセージとして、世界会議の閉会全体合会において発表しました。

【ESD あいち・なごや子ども会議の概要】

参加者：県内の小学5年生から中学3年生 121名

内 容：①発足式（平成26年7月5日（土））

②エクスカージョン（現地学習）

区分	分野	実施日	場所
共通	国際理解、食料、 貧困等	7月31日（木）	JICA 中部
選択	気候変動・エネ ルギー	8月6日（水）	東邦ガス ガスエネルギー館 あいち臨空新エネルギー実証研究エリア 愛知県農業総合試験場
	防災	8月7日（木）	名古屋市港防災センター 日光川排水機場 弥富市水郷公園 輪中の郷
	生物多様性 （海・下流域）	8月8日（金）	ラムサール条約湿地藤前干潟 藤前活動センター 宝神水処理センター 空見スラッジリサイクルセンター
	文化	8月19日（火）	花祭会館 旧東菌目小学校
	生物多様性 （山・上中流域）	8月22日（金）	豊田市矢作川研究所 矢作川（明治用水頭首工付近） 矢並湿地 トヨタの森

③グループ討議（9月7日（日）、9月21日（日）、10月25日（土）、10月26日（日））

④全体会議（11月10日（月））

⑤メッセージ発表（11月12日（水））＜世界会議の閉会全体会合にて＞

ESD あいち・なごや子ども会議からのメッセージ（抜粋）

ここで、子ども会議から、大人みなさんに、次のことを提案します。

- ・戦争をしないでください。武力で解決しないでください。
- ・世界の人々が協力して、どの国の人も教育が受けられる環境をつくってください。
- ・子ども会議のような、学び、考え、話せる場をもっとつくってください。大人も ESD に興味を持って参加してください。
- ・知識も経験もある大人が、現状や未来に伝えたいことをもっと私たちに教えてください。
- ・多くの人に ESD を広めてください。ESD の考え方を広めて、今ある法律を変えてください。
- ・地域の人たちともっと交流してください。
- ・未来に目を向けて考えてください。当たり前のことを大切にしてほしいのです。子どもができて大人にできないわけがないと思います。

子ども会議の私たちが考える「ESD」とは、「未来を考えて、行動すること」です。みんなが ESD の主人公となって、今、これから、未来に向かって、ESD に取り組んでいきます。私たちは本気です。大人みなさんも、本気になって ESD に取り組んでください。ESD は、この世界の未来にとって一番大切なものなのであります。



発足式



現地学習 (JICA 中部)



現地学習 (藤前干潟)



全体会議



メッセージ発表 (世界会議
の閉会全体会合にて)

オ 多様な主体による取組

(ア) 中部 ESD 拠点の取組

国連大学が認定し、国内に6カ所ある「持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点」

の一つである「中部 ESD 拠点」は、ESD ユネスコ世界会議に向けて、「伊勢・三河湾流域圏 ESD 講座」及び「中部 ESD ワークショップ」を開催しました。

【伊勢・三河湾流域圏 ESD 講座】

流域ごとの課題共有と解決に向けた学びを促進するために、愛知・岐阜・三重県に流れる主要11河川の上流・中流・下流の公的及び非公的な教育機関や活動団体と連携して3年間で100講座を実施するとともに、開催した ESD 講座の事例や地域の課題及びその解決のための活動の情報を共有するため、最終的には参加者が一堂に会してフォーラムを開催しました。



ESD 講座

【中部 ESD ワークショップ～ものづくり・ひとづくり・未来づくり～】

世界会議で発信する ESD 推進の「中部モデル」を完成させることを目的に世界会議直前の平成26年8月、9月、10月に、これまでのすべての活動主体による合同ワークショップを開催しました。

第1回「ものづくりと ESD」 8月2日(土) 中部大学名古屋キャンパス

第2回「ひとづくりと ESD」 9月27日(土) 名古屋港ポートビル

第3回「未来づくりと ESD」 10月5日(日) 中部大学名古屋キャンパス

(イ) 愛知学長懇話会の取組

愛知県内4年制大学の学長等が参画する愛知学長懇話会は、ESDの視点を持った活力ある人材育成を目的として、「生物多様性・食・農

と持続可能性」などをテーマとした「ESD 大学生リレーシンポジウム」を平成26年1月から9月の間に計7回開催しました。

【ESD 大学生リレーシンポジウム】

テーマ	開催日	場所
生物多様性・食・農と持続可能性	1月11日(土)	中部大学
持続可能な中山間地域と人間居住	4月12日(土)	愛知大学
エネルギーと持続可能性	6月21日(土)	名古屋工業大学
経済と持続可能性	7月5日(土)	名古屋市立大学
持続可能な都市と人間居住	7月12日(土)	名古屋学院大学
災害と持続可能性	8月23日(土)	名古屋大学
地域の中でよりよく生きる	9月27日(土)	愛知学院大学



中部大学でのシンポジウム

(ウ) 学校の取組

ESD の推進拠点であるユネスコスクールを中心として、幼稚園、小・中・高校などの学校現場において、様々なESDの取組が行われています。

県では、加盟及び取組内容の拡充など、学校におけるESDの取組を促進しています。(平成26年11月現在のユネスコスクール加盟校112校、申請中42校)

※ユネスコスクールとは

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、昭和28(1953)年に創設され、(1)地球規模の問題に対する国連システムの理解、(2)人権、民主主義の理解と促進、(3)異文化理解、(4)環境教育、といったテーマについて、質の高い教育を実践する学校です。平成25年6月現在、世界181の国と地域で約9,600校が参加しています。

【ユネスコスクールの取組】

一宮市立中島小学校

年間を通して緑化・栽培に関する活動を取り入れたESDカレンダーを作成し、実践しています。計画的に野菜を栽培しますが、特にサツマイモについては、保護者の協力を得て全校児童で苗を植え、収穫しています。

収穫した野菜は、毎年地域主催で行う「感謝祭」で来場した地域の方々に配っています。児童は、準備の段階では、サツマイモの重さを量ったり、枝豆の房を取ったりしながら楽しそうに取り組み、感謝祭当日も来場者に声をかけながら手渡ししています。野菜栽培や収穫活動を通して、地域の方とふれあうことができます。



感謝祭

豊橋市立章南中学校

校区にある汐川干潟に関わる活動を中心にカリキュラムを作成し、実践しています。1年生では、現地での観察や地域の人への取材を通じてその特色を追究し、汐川干潟の価値を認識しています。2年生では、干潟の保全に向けて、クリーンアップ作戦や外来植物であるヒガタシの駆除活動を行います。そして、3年生では、校区の人たちと汐川干潟を保全する活動ができないか具体的に考え、行動しています。実践を通じて、将来にわたって地域に愛着をもち、地域のために役に立ちたいと考える生徒を育てています。



ヒガタシの駆除活動

中部大学第一高等学校

毎年、国際協力活動に取り組んでいます。フェアトレード活動では、JICA 中部を訪問し、世界の経済格差と発展途上国の現状を学びます。そして、文化祭で世界の現状を紹介するとともに、フェアトレード商品の委託販売を行っています。また、世界寺子屋運動については、教育を受けられない子どもが世界中にいるという現状を学び、名古屋国際センターの協力を得て、展示発表と書き損じはがきの回収を行っています。いずれの活動でも、「世界の現状を知ること」、「行動を起こすこと」の二つを重要視しています。



フェアトレード活動

(エ) 企業・経済界の取組

世界をリードするモノづくりの拠点として、環境に優しい商品開発など、持続可能な社会に配慮した活動を、多くの企業が進めています。また、ESD の視点を取り入れた人材育成や、NPO、学校など地域と連携した環境学習プログラム

などの CSR 活動に取り組み、それらをサステイナビリティレポートとしてまとめるなど、企業においても、ESD に関連したさまざまな取組を行っています。



子ども環境学習「エコロお店探検隊」
(ユニーグループ・ホールディングス株)



環境学習プログラム
(アイシン精機株)



自然ふれあい体験プログラム
(トヨタ自動車株)

(オ) NPO の取組

意識を持った者が自発的に集まり、公益の増進を目的に活動を行う NPO は、ESD の実施主体

として最も期待される主体の一つであり、県内でも多くの NPO が ESD の実践に取り組んでいます。



きれいな海を守る心を広げるためのプログラム
(環境ボランティアサークル亀の子隊)



企業緑地における学生との協働による活動
(命をつなぐPROJECT 学生実行委員会)